

国語 第5学年 ひみつの言葉を引き出そう

自分の学級に合わせて直すプロンプト

下の枠の文を全部そのままAI（ChatGPT・Claude・Gemini など）に貼り、質問に答えると、この単元の学習指導案が自分の学級に合わせて直ります。枠の後半には、直す対象の学習指導案が入っています。

あなたは小学校国語の授業づくりを手伝う役です。この後に貼る指導案を、私の学級に合わせて書き直してください。最初に、児童の既習事項と今の学習状況、読む・書く・話す・聞く際に必要な配慮、学校の年間計画と使える時間、研究授業で確かめたいこと、使える資料と道具を一項目ずつ質問し、回答を待ってから次へ進んでください。条件がそろったら、次のねらいを保ってください。相手の返答から関連する質問を考え、必要な言葉を聞き出す。目標・評価規準・単元計画・本時の活動を対応させ、本文を省略せず書き直してください。教材本文・台詞・挿絵・教科書固有の問題文は転載しないでください。教材名と公式の総時数は出典を照合し、独自の時間配分は授業案として区別してください。人数や分数を事実のように補わず、回答がない条件は未確認としてください。児童の反応は予想と明記してください。三重の指導案の見出し順を保ち、先生向けの文章に内部IDなどを出さないでください。変更箇所と、その根拠となった回答・出典を最後に示してください。直す対象の指導案を以下に貼ります。

———ここから直す対象の学習指導案———

第5学年 国語科学習指導案

1 単元名「ひみつの言葉を引き出そう」 教材名「ひみつの言葉を引き出そう」

2 単元の目標

言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づくことができる。〔知識及び技能〕(1)ア)

話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができる。(A(1)エ)

相手の返答から関連する質問を考え、必要な言葉を聞き出す学習の中で、言葉への関心をもち、自分の取り組みを見直そうとする。

3 単元の評価規準

〔知識・技能〕①言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付いている。〔知識及び技能〕(1)ア)

〔思考・判断・表現〕①「話すこと・聞くこと」において、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えている。(A(1)エ)

〔主体的に学習に取り組む態度〕①相手の返答から関連する質問を考え、必要な言葉を聞き出す学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確かめながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

相手の返答から関連する質問を考え、必要な言葉を聞き出す。この教材では、聞き取れたこと、追加で聞いたこと、返答で詳しくなったことのメモを残し、言葉をどう使ったか、どう捉えたかが分かるようにする。

(2) 児童について（学級の実態を書く）

(3) 指導について

教師の独自の短い体験話を聞き、聞いたことと知りたいことを絵や言葉で分ける。本人の家庭事情を尋ねる話題は避け、学校で共通に経験したことも選べるようにする。想定する難しさは、一度に多く質問して返答を聞かない、話し手の内容と無関係な質問をする。評価では、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えているかを、聞き取れたこと、追加で聞いたこと、返答で詳しくなったことのメモと活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

5 指導と評価の計画（全1時間）

第1次 第1時（本時）：○相手と話す目的を確かめ、聞いて知りたいことや話す材料を出す。教師が設定した身近な話題で、聞き手が返答に関わる質問をする。目的に近付いた質問と話題が外れた質問を振り返り、聞き方の違いを説明する。聞き手が受け取った内容を話し手に返す。伝わらなかったところを聞き返し、言い方や聞き方を試し直す。 評価：思①（発言・活動中の記録・作成物）

6 本時の指導 (1/1)

(1) 本時の目標

話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができる。(A(1)エ)

(2) 学習過程

【導入】

学習活動：相手と話す目的を確かめ、聞いて知りたいことや話す材料を出す。

○「相手の答えから、次にどんな質問を考えますか」

【めあて】相手の返答から関連する質問を考え、必要な言葉を聞き出す。

予想される児童の反応：・何をしたかは聞けたが場所を知りたい。

指導上の留意点：最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。

【展開】

学習活動：○「相手の答えから、次にどんな質問を考えますか」

教師が設定した身近な話題で、聞き手が返答に関わる質問をする。目的に近付いた質問と話題が外れた質問を振り返り、聞き方の違いを説明する。

聞き手が受け取った内容を話し手に返す。伝わらなかったところを聞き返し、言い方や聞き方を試し直す。

予想される児童の反応：・何をしたかは聞けたが場所を知りたい。

・友達が答えたことをもう一度確かめたい。

・聞くと初めより様子が分かった。

指導上の留意点：教師の独自の短い体験話を聞き、聞けたことと知りたいことを絵や言葉で分ける。本人の家庭事情を尋ねる話題は避け、学校で共通に経験したことも選べるようにする。

想定する難しさ：一度に多く質問して返答を聞かない、話し手の内容と無関係な質問をする。

評価では、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えているかを、聞き取れたこと、追加で聞いたこと、返答で詳しくなったことのメモと活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

評価：思①話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えている。(発言・活動中の記録・作成物)

【まとめ】

学習活動：【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。

聞き取れたこと、追加で聞いたこと、返答で詳しくなったことのメモを見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確かめる。

予想される児童の反応：・聞くと初めより様子が分かった。

指導上の留意点：教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確かめる。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。

評価：態①(最初と最後の記録、見直しの理由)

(3) 板書計画 (縦書き・右から左へ)

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「相手の答えから、次にどんな質問を考えますか」。中央は、聞き取れたこと、追加で聞いたこと、返答で詳しくなったことのメモに必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

